

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 3270101391 | | |
| 法人名 | 有限会社 メディックス古沢 | | |
| 事業所名 | グループホーム野の花 1Fユニット | | |
| 所在地 | 島根県松江市大庭町1311-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成28年1月28日 | 評価結果市町村受理日 | 平成28年3月29日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=327

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|----------------|--|--|
| 評価機関名 | NPOしまね介護ネット | | |
| 所在地 | 島根県松江市白湯本町43番地 | | |
| 訪問調査日 | 平成28年2月16日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>1) 地域との関わりを重視し、月の行事においても保育園、幼稚園との交流や職員の家族、知人によるボランティアも行っている。</p> <p>2) 栄養バランスのとれた食事の提供をする為に栄養士に管理をしてもらっている。</p> <p>3) 内部研修や古沢グループの研修会に参加が出来、スキルアップが図れるようにしている。</p> |
|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|---|
| <p>地域との関係を大切にしている、ボランティアの協力を得たり、季節ごとの行事に地元の保育園や幼稚園児を招いて交流し利用者の楽しみになっている。利用者の高齢化、重度化に伴い、より食事を重視し栄養士に管理をもらい状態に合わせたメニューを作り栄養管理ができるように取り組んでいる。また、研修会に参加したり外部から講師を招いて学習を行い、スキルアップを図りながら利用者のケアやサービスの向上に努めている。</p> |
|---|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所理念を常に見える所に提示し、主に全体会を通し理念を共有し実践につなげて行けるよう努めている | 全体の会議やユニット会議で話し合いを重ね、利用者の思いや意向を尊重し個別のケアとなるよう、本人本位の暮らしを支援している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域ボランティアや幼稚園、保育園との定期的な交流をしている。又、近隣の方からの野菜の提供もある | 地域ボランティアの協力や幼稚園、保育園児と季節の行事を通じての交流を継続して行っている。散歩時に挨拶を交わしたり、野菜の差し入れがあるなど良好な関係を築いている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 推進会議で家族や地域の方に普段の様子や取り組みを伝えている。人材育成の貢献として地域の学生の職場体験、福祉体験、介護資格取得する為の実習生の受け入れをしている | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 隔月に運営推進会議を行い、意見交換などを行い、アドバイスを頂いている。又、3月には家族会も併せて開催しており、サービスの向上に努めている | 利用者の状況や活動状況を報告し要望や助言を得てサービスに活かしている。地域に高齢者が多いこともあり、「悪徳商法」について講師を招いて情報を提供したこともある。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議には市の職員の方にも参加をして頂いており、意見交換を行っている。疑問点があればその都度、質問をして解決している。 | 利用者のことを相談したり、地域の高齢者の情報を共有して入居の受け入れに取り組むなど協力関係を築いている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的な勉強会を開催し、職員に再確認をしてもらっている | 外部から講師を招いて勉強会を行い理解を深めている。利用者の転倒のリスクなど気づきがあればその都度話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 多くの職員が研修を受講出来るよう、講師に出向してもらい学ぶ機会を設けている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 外部研修に積極的に参加し、対象者がいる時には事前に勉強会を開き、理解を深めて行く | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 改定時には説明会を開催して家族の理解、納得を図っている。契約時にもわかり易く説明を行っている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関に意見箱を設置し、苦情処理担当を設けている。家族アンケートをとったり、面会を通し家族と積極的に関わり意見を聞いている | 日頃から様子を伝え、運営推進会議や家族会などで意見を聞いている。家族会への参加を増やすために家族にアンケートを実施した。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員の意見や提案を聞く機会を作りできる限り意見に添えるよう努力している。 | 全体の会議やユニットごとの会議で意見を聞く機会を作っている。日頃の職員の気づきはその場で対応したり、検討して反映させている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 処遇改善交付金を責任者・夜勤者が出来る者・日勤のみの職員とで振り分け、やりがいが持てるように配慮している | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修に参加出来る体制をとっている。又、定期的に職場サポート事業等の外部講師を招いての職員研修も行っている | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | グループホーム部会等へ一般職員も参加して他施設とも交流を深めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居されるまでに必ず面接をし本人自身から、気持ちを聞ける場合はしっかりと聞くようにしている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学して頂く機会を持ち、入居されるまでに家族と十分な話し合いを設け、関係づくりに努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談の段階でゆっくりと話を聞き、必要としている支援を見極めるようにしている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 得意な事の把握に努め、日々の生活の中で役割をもち、暮らしを共にしている。出来る事はしてもらっている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 毎月の行事案内は担当者が行っている。電話連絡をしたり、面会時などを利用し、関係を築く努力をしている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご家族、友人、知人の方々は自由に面会をされている。又、苑の行事への参加もしていただいている | 馴染みの美容師に来てもらったり、家族の勤める美容院に出かける人もいる。友人や知人の面会時は居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が間に入り声を掛けやすい状況を作り出し、利用者同士の関係が深まるよう努めている。利用者同士援助しあっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス利用終了後、必要に応じ対応をしている | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 利用者ごとに職員の担当制を取り入れ、主に担当者が家族との交流を深め、こころやすい関係を作り、本人や家族の思いの把握に努めている | 入居前の情報や日頃の会話、様子を見ながら要望を聞き思いの把握に努めている。担当制を取り入れ信頼関係を築き利用者の理解に努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 日常会話の中からも新たな情報が把握できるように努めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人の一日の流れ、リズム、心身状態を把握し本人が持てる力を見出すことに努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月各ユニットごとに会議を開催している。担当者を中心に本人、家族の思い、意見を考慮し、それをもとに介護計画を作成している | 毎月ユニット会議で話し合い、三ヶ月毎にモニタリングをしている。プラン作成時には利用者、家族の思いを取り入れ支援に繋げている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護記録や引き継ぎノートを利用し、職員間で情報を共有し後にユニット会にあげ、介護計画の見直しを行っている | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 通院介助・帰宅への援助・外部入浴施設への付添等柔軟な支援を行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|----------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域の行事等に参加し心身の力が安全に発揮出来る支援をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医との関係を築きながら協力医療機関から訪問診療に来てもらうケースもある。又かかりつけ医との連絡ノートを作成し、連絡、相談を行いながら適切な治療が受けられるよう支援している | 利用者、家族の希望のかかりつけ医を受診し連絡ノートで情報を共有している。協力医療機関からの訪問診療を受けることもあり連携して取り組んでいる。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 医療連携体制の契約をしている訪問看護ステーションとの連携をとっており、健康チェックを日々行い、異常があったり入退院等があれば報告し常に、医療面での相談も行っている | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は職員も関わり、主治医からの説明を聞くようにしている。医療機関にも家族だけでなく苑へも連絡をしてもらい、相談しながら退院後の受け入れが出来るように努めている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化し、看取りを希望される家族もある。契約時に説明を行い、意向確認書をとっている | 看取りを希望する家族もあり意向を聞きながら関係者と話し合い取り組んでいる。職員は看取りについての勉強会をして利用者に寄り添うケアができるよう努めている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 昨年7月に急変時の対応について講習を受けた。普及員と消防署から出向してもらい、全職員を対象に普通救命講習を予定している | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 大庭地区防災隊に加入し、お互いに協力できる体制を整えている。事業所内でも年に2回訓練を行っている | 地区の防災隊に加入して協力体制を整えている。食料品の備蓄もしている。地域の人の訓練への参加は実現していない。 | 地域の人の訓練への参加を是非実現させていただきたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 全員が個室で生活されている。 入浴は個室にて対応 気分を害されるような言葉遣いがないよう、職員一同気をつけている。 | 排泄時の声掛けや入浴時の対応など、利用者のプライバシーに配慮して支援している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 外出希望、例えば独りで暮らしていた家に帰りたいとあれば浴うようにしている | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個人の希望、例えば外をひとりで散歩したい等があれば不慮の事故に備え覚書等を作り出来るだけ自由な生活ができるようしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 馴染みの美容師に来てもらったり、家族の勤務する店でカットされる方もある。自分で服を選ばれる方には職員が対応している | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食器の片付けを手伝ってもらったり季節の野菜を沢山いただいた時には保存食を作る作業を手伝ってもらっている。又、誕生日メニューや行事食も取り入れている。 | 野菜の皮むきや片付け、台拭きなど、利用者の力を活かせる場面がある。誕生日に希望のメニューを取り入れたり、季節を味わうお菓子作りを行い楽しめるよう工夫している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 摂取がしやすいように食事形態や量を調整し提供している。水分も、とろみ剤を使用して提供するなどの支援もしている。栄養士が献立を立てバランスの良い食事を提供している | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 一人ひとりに合った口腔ケアを実施している。2日に1回入れ歯洗浄剤を使用している。希望者は協力医による訪問診療も受けられるようにしている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 日々の様子観察で得た排泄サイクルを元にトイレ誘導を行い、個別の支援に努めている | 一人ひとりの排泄サイクルに合わせて声を掛けトイレでの排泄を支援している。睡眠が十分とれるように夜間のみポータブルトイレを使用する人もある。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェックを行っている。手作りヨーグルトや野菜を多く提供したり、水分摂取を促している。個々に応じた薬の調整や腹部マッサージも行っている | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 声掛けをし、自己決定をしてもらっている | 利用者の希望を尊重し支援している。「ゆっくりお湯に浸かりたい」「温泉に行きたい」など、希望を聞き個別の支援をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者の自由にしているが時間を見て声掛けもしている。夜間眠れない時は一緒にお茶を飲んで過ごしている | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬ファイルを作成し、職員が内容の把握に努めている。症状の変化が見られたら主治医に相談をしている。服薬は二人体制で確認している | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 10時のお茶は好きな物を飲まれている。洗濯物たたみ、野菜の世話など好きな事、得意な事に取り組めるよう、声掛けを行っている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 希望のある方には戸外に出掛けられるよう支援を行っている。又、普段は行けないような場所には行事として行き外出の機会を作っている(花見、花火見物) | 希望に沿って外出しているが、希望を伝えられない人も天候の良い日は近所を散歩したり、テラスでお茶を飲んだり外気に触れるように支援している。受診後、家族と一緒に自宅に寄って来る人もある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個別での外出支援時に所持したお金を使えるようにしている | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話を掛けたい方には苑の電話を利用してもらっている。手紙もやりとりが出来るように支援している | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 場所によって清掃を夜間に行っており、気持ち良く過ごせるようにしている。又、季節の花も飾るようにしている | 利用者と一緒に花を生けたり、書や季節の飾りつけをして居心地よく過ごせるような空間づくりを工夫している。古い家具やこたつなどを置き、生活感を採り入れている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 席次も配慮している。ホールでテレビを見たり、利用者同士、話をしたり定位置でお茶を飲んだり思い思いに過ごされている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みのある家具や装飾品などを家族に持参していただけるように説明し、協力してもらっている | 家族写真や、鉢植え、化粧品などを置き、一人ひとりの思いに合わせている。畳とフローリングの部屋があり希望や身体状況に合わせて対応している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 浴室、トイレ、廊下、階段に手すりを設置し、利用者の安全、使いやすさに配慮している。「トイレ」の表示を目線に合わせて下の方に表示している。又、肘掛け付の椅子を使用される方もある | | |